

令和4年度第1回沼田市総合教育会議会議録

1 開催日

令和4年9月27日（火）

2 場所

テラス沼田 庁議室

3 出席者

沼田市長 星野 稔

沼田市教育委員会

教育長 竹之内 篤

委員 中村 俊生

委員 高橋 昭紀

委員 中村 春夫

委員 永井 和恵

事務局

北澤昇教育部長、横山隆一教育総務課長、角田巧学校教育課長、小野利明生涯学習課長、角田浩文化財保護課長、鶴淵佳秀スポーツ振興課長、川端正志教育総務課長補佐

4 開会 午後1時26分

5 市長挨拶

6 会議録署名人の指名

市長が高橋昭紀委員を指名

7 意見交換

議長：星野市長

テーマ

（1）部活動の地域移行について

○学校教育課長から、部活動の地域移行について説明

◎主な意見

中村俊生委員)

- ・部活動は、土日を含めてやり過ぎではないかという話があった。私が子供の頃も、金曜と日曜は休みにしようとなったが、いつの間にかなくなった。私の子供も、土日のどちらかは休みにしていたが、休みの日も自由参加の活動があった。部活動を地域に移行させるということは、土曜も日曜も活動することに対して、お墨付きを与えることになるのではないか。子供も休みたいのではないか。

学校教育課長)

- ・部活動は、それぞれの学校の運営方針に基づいており、土日のどちらかは休

みにして、平日も1日休養日を設けることで週2日は休養日が確保できるようにしている。土日に大会や練習試合がある場合は、平日に振り替えて休むようにしている。地域移行については、教師の業務に関わる部分もある中で出てきた話でもあるため、休みを確保しつつ、練習の量や質を高めることにつながると考えている。

中村俊生委員)

・土日のどちらかを休みにするというのは、実際に守られているのか。

学校教育課長)

・運営方針にきちんと定められているので、各学校で守られている。

教育長)

・昔から、部活動の過熱は、課題として挙げられていた。それを受けて、各学校、各部で活動方針を定めている。実際に、この活動方針は守られていると思う。土日両方とも活動したら、必ず平日に休養日を設けるようにしており、昔と比べると、改善されてきていると考えている。

高橋昭紀委員)

・学校としては、土日のどちらかを休むようにしていると思う。社会体育として部活動以外で練習をしているケースや別のクラブに通う場合もあるが、学校としては休養日を設けていると思う。地域移行に関しては、学校によって指導者が確保できるか疑問である。また、平日は教師が指導し、土日は地域の方が指導すると、その引継ぎが適切にできるか疑問である。事故が発生した場合の責任問題も気になる部分である。

学校教育課長)

・ご指摘の部分が課題と考えている。教師と地域の指導者の引継ぎや事故の対応も含めて、受け皿を探して具体的に詰めていきたい。その段階的な準備としての3年間と考えている。体育協会や関係団体にも情報提供しつつ、検討していきたい。

高橋昭紀委員)

・教師と地域の指導者のどちらが指揮者となるのかが、生徒にとって大事だと思う。

市長)

・その部分については、今後、整理させていただきたい。

中村春夫委員)

・教職員の働き方改革として捉え、専門的な地域密着型の展開をすると良いことだと思う。学校によっては、入りたい部活がないとか、地域に専門的に指導できる方がいるかなど課題はあると思う。また、専門的な指導者を外部から招くと経費がかかる。その経費に対して国や県から助成が出るのか、市で負担するのかを検討していただきたい。

学校教育課長)

・地域に密着して運営できる環境であれば問題ないが、難しい部分もあるので、市内の生徒たちが公平に享受できるような環境を整えていかなければならないと考えている。そのために、どことどこを結びつけるか、マッチングについても考えていきたい。指導者の経費については、まだ不確かな部分があり、国や県の動きについて情報収集していきたい。

永井和恵委員)

・部活動は、人格形成にとって重要な場だと思う。私の子供は、剣道部で土日も練習や試合に行っていた。大変だったが、精神的に鍛えられたと思う。当

時は、駐在さんが先生の代わりに指導してくれたり、地域の協力があつた。中学校は地域の中核なので、先生の頑張りに期待している。是非、改革を進めていただきたい。

学校教育課長)

- ・中学生にとって、部活動が人格を形成する上で重要であることは、教師も感じており、成長を見るのが楽しみだという意見もある。土日の部活動も指導したい教師は参加できる方針になっている。教師にとっても、生徒にとっても、地域にとっても良い形を探っていくのが改革の趣旨なので、きちんと見極めながら進めてきたい。

高橋昭紀委員)

- ・再任用等の教師に手伝ってもらう方法も良いのかなと思う。定年まで部活動を指導してきた経験を生かしてもらおう。

市長)

- ・部活動の外部指導者については、議会でも一般質問があつた。まだ、方針が出されたところで、手探り状態であり、市として明確なものが出ていないのが率直なところであるが、各委員の意見により課題等がはっきり見えた気がする。部活をやり過ぎではないか、強制につながっていないかという懸念については、クラブチーム等に参加して、もっとスポーツをしたいという意見もある中、各委員からいただいた意見を参考に、強制にならないように新しい教育現場での部活動の在り方を構築していきたいと考えている。地域の指導者がいない場合のフォロー、教師と地域指導者のどちらが指揮を執るか、予算的な措置等、地域指導者との接点の構築、退職教師とのコンタクトなどの課題を踏まえて、今年度準備をして、来年度も更に詰めていくことで進めていきたい。

(2) コミュニティスクールにおける地域学校協働活動の一体的推進について

- 生涯学習課長から、コミュニティスクールにおける地域学校協働活動の一体的推進について説明

◎主な意見

中村俊生委員)

- ・コミュニティスクールが導入された場合、学校経営方針については、学校経営ヒアリングの前に、学校運営協議会の承認を得る流れなのか。

学校教育課長)

- ・学校経営方針については、承認を得ることになるが、試行の初年度は学校経営ヒアリングの後になるものと思われる。

高橋昭紀委員)

- ・地域と学校の一体化だと思う。地元の薄根地区では、幼小中が連携して意見交換等をしている。また、薄根サミットとして2か月に1回、市の職員や大学の教授を招いて、地域発展をテーマにグループディスカッションや討論会をしている。そういう取組がない地域に対して、校長会等で発表して意見交換をしたら、役に立つのではないかと思う。

中村春夫委員)

- ・地域密着という点では、非常に良いと思う。多那ではこれに近いことが既に

行われていると思う。より多くの方が学校運営に関わると良いと思う。

永井和恵委員)

- ・学校で読み聞かせ活動をしているが、そういった団体等が一堂に会して会議をすることの負担が心配である。現在、学校に評議員会があるが、それが運営協議会になるのか。

生涯学習課長)

- ・学校に設置される学校運営協議会。これが評議員制度に替わるものになっていくと思う。一方で、各地域に地域学校協働本部を立ち上げていただいて、学校に協力していただける地域の方が集まっていたり、その中で中心的な役割の方が推進員として調整役になっていただく形になる。例えば、先ほどの読み聞かせの方には、協働本部に参画していただいて、推進員から声掛けがあったときに、できる範囲で協力していただくような形になると思う。あまり負担にならないようにしていきたい。

市長)

- ・市長部局で進めているのが、各地区で地域づくりをやり直そうということで、高崎経済大学の先生に講師をお願いして、令和6年4月から市内10地区に地域協議会という制度を立ち上げる準備を進めている。昔のように、密接に近所付き合いができていた時と違い、今は、隣近所が分からなかったり、個人情報面の面もあり関係が薄れ、地域の活力が落ちているということが一番の心配である。令和3年度に、利南、池田、薄根、川田で地域づくり活動をスタートして、白沢、利根でも始めようとしているところである。コミュニティスクールは、2年後に導入して、皆で学校を中心に盛り上げて、子供たちを育てようという流れだと思うので、皆さんから貴重なご意見をいただける機会を作っていかなければならないと考えており、丁寧に説明をしていきたい。よろしくお願ひしたい。

(3) その他

○以下について意見があった。

- ・映画「お茶をつぐ」(沼田市で撮影)について
- ・スケートボード練習場の整備について
- ・子育て世帯などを対象にした助成制度について
- ・沼田まつりの開催見直しについて
- ・給食費の無償化について

8 閉会 午後2時45分